



**犬の耳は
ココが
すごい!**



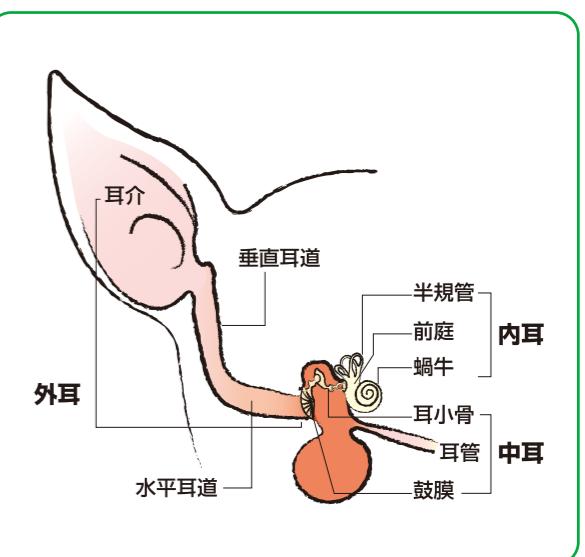
遠くからでも飼い主さんの足音を聞き分けたり、お菓子の袋を破るかすかな音も聞き逃さない。

そんな犬の「スゴ耳」を
クローズアップ！

「外耳炎」を招きやすい
「L字型の耳道」

春から夏にかけての季節、耳のトラブルとして注意したいのが「外耳炎」です。原因は、耳ダニや真菌(カビ)、細菌、アレルギーなど様々ですが、ひどい場合は耳垢、耳がにおうなどの症状が出ます。犬の耳は、人と違つて外耳道がL字型に折れ曲がつており、途中から横方向に進んでいきます(水平耳道)。この部分は汚れがたまりやすく、また通道(通じ)が悪くなると、耳垢も真菌の増殖を助長する一因となることがあります。

なお、日頃のお手入れは、耳介を脱脂綿でやさしく拭したり、イヤーローションを耳に垂らしてクチュクチュともむ程度で、綿棒を使うと、外耳道を傷つけたり、汚れを奥に押し込んでしまいかねないので、やめておきましょう。



耳介が優れた
「集音器」の役割を發揮

犬の耳のしくみで、人と一番違うのは「耳介」でしょう。犬の耳介はたくさんの筋肉からなり、伸びる方向に片耳ずつ自在に動かすことができます。効率のよい「集音器」の役割をしていふのです。

耳介で拾われた音は鼓膜を振動させ、その振動が中耳内の耳小骨を伝わって、内耳へ。内耳の蝸牛の中には音を感じ取る細胞があり、聴覚情報を聴神経を通して脳へと伝えます。ちなみに、平衡感覚を保つ機能は、内耳の前庭と半規管が担つてます。こうした耳のしくみや働きは、犬も人も変わりません。

すごい!
③



直系3 mmの鋼鉄の球を3 cmの高さから鉄板に落として、その音を聞き取る実験で、人は6 m離れると聞き取れなかつたのに對し、犬は24 m離れても聞き取れたそうです。単純に計算すれば、人の4倍の聽力といふことになります。

32方向の 音源を 聞き分けられる!



音のする位置をどれだけ正確に聞き分けられるかという能力についても、犬の圧勝！ ある実験によれば、人は16方向の音源しかわからなかつたのに対し、犬はその2倍、32方向の音源を聞き分けることができたそうです。やはり耳介を自在に動かせるのが強みですね。

- 「耳がピンと立つて立てる」…注目したり、集中して立てる。
- 「耳が前方に向かって立つて立てる」…警戒や緊張、攻撃的になつて立てる。
- 「耳が後方に倒れて立てる」…不安や恐怖を感じて立てる。

犬は聴力が優れているというけれど、垂れ耳犬種はどうなの?

うちの犬は話しかけると首を傾げま
どんな意味があるの？

犬は母音の聞き分けはできますが、子音が苦手。例えば「ジャッキー（J a c k i e）」と「チャッピー（C h a p- p-i-e）」、「マート（M a r t）」と「ダメ（d a m e）」など、同じ母音で構成される言葉は、聞き間違いをする可能性があります。犬の名前や指示語は、犬が聞き分けやすくなる配慮も大切ですね。

違う名前で呼ばれても、反応する。なぜ自分の名前を覚えてないのである?

どうして? 耳の不思議を解明!